



TITLE:

フランス帝國經濟會議

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. フランス帝國經濟會議. 經濟論叢 1935, 41(2): 229-245

ISSUE DATE:

1935-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130619>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會

經濟叢論

第十四卷 第二號

昭和十年八月一日發行

論叢

生産の構造……………

文學博士 高田保馬

寺院と課税……………

法學博士 神戸正雄

第三世界觀的人格典型……………

文學博士 米田庄太郎

時論

最近に於ける産業組合金融の動向……………

經濟學博士 八木芳之助

研究

フランス帝國經濟會議……………

經濟學士 松岡孝兒

産業的

流通に於ける

營業貨幣の流通速度……………

經濟學士 中谷實

マリーカン

時代の海運政策の典型……………

經濟學士 明石嚴三

商業生産説の諸性格……………

經濟學士 松井清

說苑

希臘人の「植民」觀……………

農學士 若木禮

中小經營の弾力性に就いて……………

經濟學士 岡倉伯士

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

研究

フランス帝國經濟會議

松岡孝兒

一序言

第三共和國を世界に誇るフランスが、一九三四年冬より一九三五年春にかけて謂はゆる帝國經濟會議 (Conférence économique impériale) と呼ばれる一會議を召集したことは、確かに今日の世界經濟地盤從つてはそれと密接不離の關係にたつ各國民經濟地盤の動向に注目するものにとつて興味ある問題を與へたといつていい。

フランスは一九三三年のロンドン會議が失敗に終つた後謂はゆる金ブロックを組織した。このことは周知の通りである。上述帝國經濟會議はこれと共にフランス經濟に現はれた特種問題である。本來この會議はイギリスに於いて大英帝國經濟聯盟運動が一九三二年に於いてその自治領カナダの首都オッタワに會議を催し、謂はゆるオッタワ協定を通じて英帝國の通貨貿易關稅關係諸

問題を吟味し、少くもイギリス本國とイギリス屬領との間に完全なる互惠又は特惠協定の成立を見るに至つたことに鑑み、フランスも亦この傾向をばとりあげて問題とするに至つたものであるといはれてゐる。¹⁾

惟ふにフランス經濟は、已に他の機會に述べたるがごとく、一九三三年以來その繁榮は徐々に侵され、これが對策は遂にフラン切下問題をさへ生ぜしめるに至つたのであるが、その對策の一はここにイギリスに倣つて一の全フランス的經濟會議計畫が準備され、之によつてフランス本國とその海外屬領との間の經濟的統一を促進せしめんとするに至つた。フランス第三共和國が之を帝國經濟會議と呼んでゐる意味も、實にかかる點に於いて、その意義と特性とを見出し得るものである。従つてそれは單なるフランス植民地會議では勿論ない。

尤もイギリスについて云へば、イギリスはオッタワ會議を通じて單に貿易上の互惠、特惠協定の問題を解決せんとせるものではない。少くも英帝國內に於ける通貨委員會、外國貿易委員會、關稅委員會を通じてイギリス經濟の本質的復興を企圖せるものである。併し結論的に云ふと、この會議はまづ第一に共通貨幣制度案が不成功に終り、且つ金融的諸案も不成立に終つた。このため或はこの會議は失敗であるとも云はれてゐる。従つてフランスも亦會議開催の契機がイギリスの例に倣つたといふ點から、その結果もまた類似せる批判をうけてゐないわけでない。

しかしともかくフランスはその謂はゆる帝國經濟會議を通じて一應の決議をなし、之によつて

1) Le Temps.—Conférence de la France métropolitaine et de la France d'outre-mer. 11. Nov. 1934, p. 2

2) 拙稿：フランス・フランの切下に就いて(經濟論叢第40巻第6號)参照

その經濟の新展開を圖らんとしつつある。従つてその案が如何なる内容を有ち、如何なる點に於いてオッタワ會議と異つてゐるかを知らねば興味なしとしない。蓋しフランスは嘗ては人も知ることくイギリスに先んじて世界一の植民地所有國であつたのであり、その後には於ける植民政策の失敗はその所有せる植民地の大部分をイギリスの占領するところとしたにも拘らず、今日尙ほイギリスに次ぐ世界第二の植民地所有國であり、而も其の植民政策は著しく本國中心主義なるに於いてイギリスの自治主義に對して特段なる對立をしてゐるからである。³⁾換言すればその傳統的植民政策に於いて異れるこの世界の二大植民地所有國が、その本國及植民地會議を通じて如何なる内容の問題を取り上げたか、またその妥當性は果して如何なるものであるかを吟味することは充分注目する價值を有つからである。

尙一言せざるべからざることは、茲に謂はゆる帝國會議 (Conférence impériale) といはれるものは、一のフランス全體強化主義の現はれであつて、素よりその帝國主義的會議 (Conférence impérialiste) の意ではない。正しく呼べば「フランス本國及海外屬領經濟會議 (Conférence économique de la France métropolitaine et d'outre-mer)」である。ロオランによれば「本國の代表者、植民地の代表者、北アフリカ及委任統治の代表者並に海外大植民地の土人代表者が共通の權威、例へば植民省の司宰の下にフランス帝國全體に於いて集合せる會議」である。

ビシャは「フランスはその歴史上の危機に於いては常にその運命の追及に必要な力を見出さず

3) 山本博士：改定植民政策研究 pp. 205—206
4) L'Information—Les conséquences pratiques de la Conférence économique "impériale", 13. Avril, 1935. p. 2
5) Pichart, L.: L'outillage public de la France d'outre-mer (Revue politique et parlementaire, Mai, 1935 p. 268)

にはおかなかつた」と云つてゐるが、此の會議は實にかくのごとく最近フランスを襲ひつつある經濟危機に對し、その謂はゆる救國的恢復政策の探究に向つて召集されたものである。このことはサロオをして次のごとく叫ばしめてゐる。⁶⁾「植民政策は今や數人の専門家に獨占されることを許さざるに至つた。そは一の國民思想となり新精神の創造者となつて一層明確にこの偉大な植民地生活をフランス生活に結合せしめるとともに、海外フランスが將來その進む過程に於いて示す新しき力を以つて祖國を富裕ならしめ、祖國の存在を強化させるところの次第に注目されつゝある相互運動である」と。このことは從來この會議の主張者たるサロウの言葉として特に注目し吟味すべきである。

尤も、かくのごとき傾向は必ずしも最近の存在ではない。世界大戰は已にフランス本國と其の海外屬領との關係を經濟的政治的精神的に強化せるものと見るべく、從つてこの帝國經濟會議はこの相互關係をば一層擴大せる經濟的統一にまで發展せしめたものと考へられるからである。⁷⁾

結局かくのごとき意味に於いて問題は一應オッタワ會議について觸れる必要があるやうに思はれる。併し今はその餘裕はない。從つてこの論述は他の機會にゆづる。それゆゑここでは専らフランスに於ける其の謂はゆる帝國經濟會議の成立組織及びその決議内容について述べ、其の間に於いてそのオッタワ會議に對する特性を論じ、かくのごとき會議が今日のフランス經濟に於いて有つ意義を批判せんとするものである。從つてオッタワ會議については説明上之を必要とするに

6) Sarraut, A.: La mise en valeur des colonies françaises. p. 17.

7) Planche, L.: La Conférence économique de la France métropolitaine et d'outre-mer (Journal des Economistes, Déc. 1934. p. 830)

於いて適宜取扱ふに止める。

二 フランスに於ける帝國經濟會議の成立と組織

一九三一年フランスは植民地博覽會をパリに開催したのであつたが、大統領ルブランは一九三四年十二月三日今次の帝國經濟會議の開會に際しその當時について次のごとく語つた。⁸⁾「……この當時（一九三一年）フランス植民地はそが既に經驗した危機を忘れてゐた。だが既に恐慌の先驅的兆候はあらはれてゐたのであつた。熱帶主要生産物價格の下落、豫算の減少、輸出の制限、其の自然的な結果たる輸入の減少、すべて此等は不況來の近きを告げるものであつた。……併しともかく少くも戰後數年間を特徴づけた明瞭な繁榮時代のすべてはまだすつかりは終つてゐなかつた。好況期に於いてその偉大な希望に打ち開かれた植民地經濟は遠大な希望に充ち満ち、かくて過去になされた努力と巨額の信用附與は尙ほ依然としてその好結果を想はせてゐた」と。

然るに周知のごとく、其後の經過は次第にフランス經濟をして危機に瀕せしめ、特に一九三三年以後に於いてその傾向は顯著である。

かくて一九三四年六月にはフランス植民地同盟 (Union Coloniale Françaises) の年次總會に於いて會長ルヌヅウは遂に本國及び植民地生産者の利益のための協力の必要を説くに至つたが、彼は更に次のごとく謂ふ。「從來かくのごとき協力連絡の缺除してゐたことは、それによつて屢々植

8) Planche: op. cit. p. 828.

9) L'Information—La défense des intérêts coloniaux, 20 juin 1934.

民地を窮地に陥れる原因をつくつてゐたので、之を防ぐため二つの計畫がたてられた。即ち一はフランス植民地聯合會議 (Conférence Française des Associations Coloniales) 他は海外フランス國民聯盟 (Fédération Nationale de la France d'outre-mer) であるが、この二つが夫々案を立て、以つて植民地の經濟的社會的發展政策を攻究してゐる。特にこの植民地聯合會議は植民地經濟に不可避的に密接に關係し且つ本國經濟を最もよく代表する者と各植民地團體との關係を緊密ならしめることに努力をしてゐる」と。

かくのごとき關係に於いて問題になるのは、フランスに於ける植民地經濟市場の有つ立場であるが、それについてはフランス本國及び海外屬領を統一する目的を以つて、公正正義、連帶責任なる見地に於いて取扱はなければならないといふことが主張されてゐる。しかしその意味するところは結局、植民地をして本國の商品市場たらしめんとするの傾向を脱し得ざるものであるといふことであり、ただもし本國生産と植民地生産とが全體に於いて過剰を示す場合には、すべてのものの權利を尊重する一般的對策が必要であるとされるの意味と解さるべきがごとくである。

がともかく上掲の主張を契機として、フランスでは本國及植民地經濟の研究は特に強調されるに至つた。そして同年十月には植民相ルイ・ロオラン¹⁰⁾は帝國經濟會議の必要を説くと共に、特にかくの如き會議の開催こそは、實に一億以上の人口とあらゆる海洋に臨む領土とを有つ大フランスの唯一の希望であり、フランスは之によつて權利と正義と平和とを護らんとするものであると

10) L'Information—Un message de M. Louis Rollin à la France d'outre-mer, 3 Fèv, 1935.

論じ、かかる事情の下に其海外フランスに對する關心は次第に具體化し政策化するに至つた。

かくて帝國經濟會議は一九三四年十二月三日から翌一九三五年四月十四日に至る間に開かれ、四回に亘る總會に於いて討議が行はれたが、その一九三四年十一月九日に發表せるコミュニケに示された組織は次のごとくである。¹¹⁾

會議の組織。

植民大臣は本會議を以つて、本國並に植民地があらゆる關係事項を廣く討議する機會たらしめんとするものである。由つて左に示す三部門の代表者を召集し、會議に参加せしむ。

(一) 關係行政官廳代表者。

(二) 植民地選出上下兩院議員。

植民地最高評議會選出代表者。¹²⁾

チュニス、モロッコ、シリヤ大評議會代表者。

アルジェリイ財政委員會。¹³⁾

植民地議會諸大委員會代表者其他。

(三) 本國並に植民地に於ける主要團體或は特定組合の承認せる民間代表者。

重要植民地及び保護領の土人代表者。

右三部門の代表者の人員は總計約二百名に達する。又本會議は、特定事項に關しては、諮問機

11) Le Temps—Conférence de la France métropolitaine et de la France d'outre-mer (11. Nov. 1934. p. 2)

12) 最高評議會は總督補弼の機關にして特に財政經濟に關する事項を管掌す。

13) 豫算關係の機關にして豫算は最高評議會に回付を見るに先立ち本機關に於いて討議票決せらる。

關として、參加を求め又は參加の必要を認めたる個人又は團體の意見を徴することもある。本會議は左の五分科委員會を設け夫々左の事項を管掌せしむ。

(一) 經濟委員會

關稅問題及び一般經濟政策の討議。

(二) 本國及び植民地生産委員會。

本國及び植民地生産物一覽目錄の作成、此等生産物生産條件の調査及び統制。

(三) 財政委員會。

豫算、銀行、信用問題の討議。

(四) 植民地諸施設に關する委員會。

鐵道、航空及び水運等の交通運輸問題の討議、土木事業の計畫、諸施設の改善、觀光客の誘致、宣傳等。

(五) 社會施設委員會。

社會、衛生及び教育問題の討議。

右委員會は必要と認むる場合、之を更に各種小委員會に分つことを得。

三 帝國經濟會議決議の内容

かくのごとくして成立せる帝國經濟會議の開催が齎らせる根本的な特色は、フランス本國並にその海外領土保護領をめぐつて一の帝國的意識を結成せるにある。之によつてフランス全體が一の協同意識又は相互扶助意識を決定せんとするにあるといはれてゐる。

併しながら翻つてこの協同意識又は相互扶助意識の實踐が、如何なるものであるかに沈潜するときは、そこに藏される實際手段についてはまた多くの問題を含まざるを得ない。

以下その決議の内容について若干述べる。この決議の内容は、主として帝國經濟會議常任理事たるC・J・ジヌウの説明に基く。彼によれば帝國經濟會議決議の内容に於いて注目さるべき點は立法意見並に立法案、植民地施設並に執行機關に關する決議等であるといふ。以下順次此等の點を論述する。

(イ) 立法意見並に立法案——帝國經濟會議が齎らせる決議は二つの方面から區別される。第一は立法意見であり、第二は立法案である。

立法意見が注目されなければならなかつた理由は、決議に先立つてその決議が齎すと考へられるあらゆる影響に注意する必要があつたからである。例へばフランス本國に對し、植民地のオレンヂ輸入を増加せしめやうとする場合、そは直ちにスペインの輸出オレンヂに影響して之を減ぜしめるがごとき事情を生ずるからであり、そはまた直ちにフランスが對外的に採用せる貿易協定に牴觸するに至るからである。

14) L'Information—Les conséquences pratiques de la Conférence économique "impériale", 13 Avril. 1935. p. 2.

これがため本會議に於いて、本國及び植民地間の生産物取引に關し考慮を要するとして取りあげられたものの數は七〇〇に達し、に當該生産物の生産調査が一々各別に行はれたわけである。

立法意見と共に注意さるべきものに多くの立法案がある。この法律案もまた極めて多方面にその聯關を有つてゐることが注目された。例へば從來はフランス本國の小麥生産者と印度支那の米生産者との間には殆どその影響が考へられなかつたが、今回の會議によりこの事情が明かとなり、これまで豫想されなかつた協定が成立するに至つたときこれである。即ち從來は印度支那の米はフランス本國に向ひ何等割當制の規定を受けることなく輸出されてゐたものであり、その米はフランスに於いて小麥以外の多くの穀物と競争してゐたのであるが、本會議に於いて印度支那の米は之をフランス以外の市場に向けて輸出することとし、その立法案が決議されたるがごときこれである。

尙又此種の法律案は單に印度支那の米についてのみではない。珈琲、鹽、其他紡績商品の若干に就いても同様な取扱が決定されるに至つた。

更に委員會に於ける決議について述べると、組織の項で述べた五分科委員會の決議中、本會議に於いて注目されたものは第一の經濟委員會及び第二の生産委員會のそれである。

第一の經濟委員會の主張を一括せるものは謂はゆるセリュイ報告である。¹⁵⁾同報告によると、今日の事情の限り、植民地市場と本國市場とは、植民地生産物の唯一の然らざるも主要なる市場と

15) L'Information—La Conférence économique impériale, Un rapport de M. Serruys, II, Avril, 1935.

して考へられるが、この理由によりフランス植民地に於いては、明年度に對し七億フランの生産利益を豫想して居り、しかもこの利益は數年間に亘つて數倍となり、本國も亦これにより將來の負擔を充分輕減せしめるの見込があると謂ふ。同報告は更に附言して、帝國經濟會議は常に物價水準又は物價水準に對する影響を少からしむべき方法の選定を考慮するを要するものであるとし、一般的には關稅よりも獎勵金を、割當よりも優先權を推稱してゐる。

第二の生産委員會は次の四小委員會より成つてゐた。即ち第一は海外屬領へのフランス本國輸出を取扱ふ本國生産委員會、第二は鑛業生産委員會、第三は農業生産委員會、第四は農業特別委員會であつて、此第四委員會の役割は特にフランス植民地の農業現狀を研究せんとするものである。¹⁶⁾

此等小委員會中第一小委員會の主要決議事項は次のごときものである。

- 一、海外取引先は本國輸出業者に對し益々重要性を有するものなること
- 二、本國生産をば海外市場の需要と見込とに對し調査問合せしめることの必要なること
- 三、植民地に於ける本國輸出を保護すること並に本國生産に負擔となる財政的社會的負擔を輕減せしめることの必要なること

四、海外人口の購買力を増加せしめることの必要なること

更に第二の鑛業委員會は特に中央鑛業調査機關の創設を要求してゐるが、この機關はフランス

全國の地下埋藏物の利用經營に参加する技術的存在である（この點については後述ハの項參照）。

また第四の農業特別委員會はフランス及び植民地相互の經濟を補ふ生産政策組織化の必要を主張し、之によつて過剰生産と國內競争との危險を防ぐと共に、土人及び農業使用者をも保護せんとするものである。尙ほ此外にも統計課の擴張、農業牧畜、森林に關する取扱機關の創設、農業生産研究に關する科學的技術的委員會の創設を主張すると共に、植民省に於ける一般事務取扱機關の設置等をも要求してゐる。

（ロ）植民地施設——植民地施設に關する案は謂はゆるメッシミ案として著聞してゐるが、その目的は鐵道、港灣、航空路の建設並に衛生施設である。従つて之に要する費用はまた決して尠少なものではない。その資金が如何にして調整されるかといふことは、この問題の見透しに於いて輕視すべからざるものであるが、結局に於いてこの資金は上掲植民地施設受益者負擔及び豫算によることになつた。

この點に關しては恐らく諸般の批判が豫期される。蓋し元來植民地に對する本國の施設はフランスではあまり犠牲が拂はれてゐなかつたからである。此の施設に於いて最も犠牲を拂つたものは何といつてもイギリスである。即ちイギリスに於いては已に早く一九二九年に於いて植民地開發條例 (Colonial Development Act) が規定され、植民地開發資金 (Colonial Development Fund) が設定されて、それは豫算より一〇〇萬ポンドの補助を受け、植民地の農業及び工業の開發に之を

使用せるの外更に交通施設、鑛山の調査經營、衛生施設等にも當てられてゐる。今イギリスに於いて一九三三年度及び一九三四年度の右費目の概要をあげると左表の通りである。¹⁸⁾

イギリス植民地開發資金表 (單位ポンド)

	一九三三—一九三四年度	一九三四—一九三五年度
植民地開發助成委員會によつて行はれる諸案總經費	四四、二六七	三、三五、〇六九
植民地開發助成委員會により認められた諸案總經費	三四九、二九〇	三、一四〇、七六〇
植民地開發助成委員會に要求される貸付總額	三六、七五四	九三、〇五四
植民地開發助成委員會によつて與へられる貸付總額	三六、七七	八九、六四

しかしこの種傾向はイギリスのみではない。イタリアに於いても亦トリポリ、ジレナイ、エリトリヤ、ソマリの四植民地に對しては同種の施設が加へられてゐる。イタリアに於いては本國は植民地豫算を監督するの外、その豫算の均衡に干涉し、又はそれに必要とする財源をも與へるものである。又イタリアでは一九三〇年に認められた特別資金が二つあるが、その一つは植民地農業開發に向けられ、他は各植民地豫算から得られない新費用に向けられてゐる。¹⁹⁾

尙ほこの種の例はオランダと蘭領印度、ベルギイとベルギイ・コンゴの關係に於いても同様である。従つてフランスはその植民地保護領等に與へる施設とその經營とに於いて、此等の國と少くも同等の割合の負擔を負ふことは、世界的傾向から見一應當然と謂はなければならない。

18) Pichat: op. cit, p. 269 et suiv.

19) 1922年より1935年に亘つてイタリアの軍事費はその植民地に對し 約60億リラを費してゐる。1922年乃至1935年に亘るイタリア植民地の財政は11億4000萬リラであるからこの例は無視し得ない。

或は今日の危機はフランス經濟をしてその豫算に植民地的負擔を負はしむることの不可能なることを説くものでもない。併しこの非難はその要求される犠牲とそれによつて齎される結果とが如何なるものであるかといふ事實に目を瞑るものである。蓋しメッシ案によるとしても、その年負擔はフランス豫算四八〇億に對し僅かに一・五億フランであり、もし之によつてフランス海外領土施設の改革と進歩とが齎されるに於いては、フランス本國にとつてその商工業上の活動並に之が豫算に齎す財源の増加從つては失業の減少等々多くの好影響を生せしめるものであり、この問題の歸結はもはや論議を許さない事情にある。

かくて此等の問題を通觀するとき、要求されるものはピシャも謂ふが如く、唯政府、議會、國家により果さるべき義務のみである。惟ふにこの義務が政府に對して要求される所以は、政府は海外フランスの施設のため政府資金を設定すべき任務を有するからであり、またその義務が議會に對して要求されるのは、議會は法律に效力を與へる任務を有するものだからであり、又最後にこの義務が國家に對して要求されるのは、この案實現の成否は一にかかつて國家に存するからである。²⁰⁾

(ハ) 執行機關の再組織——本會議は政府に對し一の執行機關を要求してゐる。その目的は決議の實施と會議の召集にある。蓋し帝國經濟會議は毎四年又は五年に開催されなければならないからである。尙又この機關の設置に對して本會議は政府に對し何等の信用をも要求してゐない。ま

20) Pichat : op. cit. pp. 278-279.

た新役員の任命をも要求してゐない。尤も、だからと云つて、本會議の要求決議が絶無であつたのではない。然らばその要求したものは何であるか。

それは植民地最高評議員會の再組織である。即ちこの最高評議員會に向ひ從來認められてゐたものより一層大なる權限を與へ、且つその意見を求める機會をも一層多く認めしめんとするものである。その役割は豫算を取扱ふべき財政委員會の役割の外、穀物委員會、産業委員會等のそれがあげられて居り、本評議員會常任理事は適時此等機關を召集し得るの權限が認められることになつてゐる。尙又現在植民省にある鑛業研究所も亦その規定を改め、以つて鑛業調査に關する中央機關に變更さるべきことが要求されてゐる。

四 結 言

以上之を要するに、フランスの帝國經濟會議は英帝國植民地會議の示すところに鑑み、行詰れるフランス經濟特にフランス貿易經濟の打開を策したものであること明かである。それが専ら植民地を以つて、フランス本國に對する經濟市場とし、この關係をば全フランス經濟の合理化運動の對象としたことは注目すべき點である。尙又社會施設に關する植民地の文化向上を企圖せる點も考へられるが、併しこれとても結局に於いて、フランス本國經濟市場の健全強化を意圖せるものであることは容易に推察されるところである。

更にこの會議の決議は主として商業貿易の方面に偏り、全生産組織に於けるフランス經濟の健全合理化は稍々輕視された傾あることも今日に於いて注目していい點である。殊に英帝國植民地會議の構成者は殆ど白色人種であつて、その間に人種的優劣の問題は取扱ふ餘地少きに反し、フランス帝國經濟會議の對象の殆ど大部分は有色人種であり、特にフランスの傳統的植民政策の特色よりすれば、イギリスに比し一層強き要求をなし得たりしものにあらざるかといふ疑問を残すに對して、實際上は此點への工作が極めて餘裕を有つてゐたことは尙ほ今後に於けるこの種會議の内容に弾力性を保たしめるものではなからうか。

或はまた此點よりして論理的にはフランス經濟的不況の行詰りが生産過程にまで干渉するの必要を認めなかつたのではないかといふことを考へるものもあるかもしれないが、しかしかくのごときは一種の思ひ過しである。何となれば六月八日ラヴァルがその内閣を組織し、謂はゆる財政獨裁權を獲得せるときに當つて彼が試みた演説中には「財政狀態がフランスを重壓する唯一の脅威である。國庫を疲弊させ貯蓄階級を憂慮させるのは莫大なる豫算の赤字であつて、フランスに對するわざわひはこれのみである……併し濫費を克服し經費を節減するだけでは不充分で、國民經濟の復興が必要であり、ここにこそ眞の目的がある……」²¹⁾と云つてゐることは、フランスに於ける不況は單なる流通部面のそれではなくて、深くその根を生産機構におろしてゐる根本問題であることを示すものだからである。

21) Le Temps—Ministère Pierre Laval devant la Chambre, déclaration ministérielle, 9, Juin 1935, p. 3

從つてフランス國民經濟の根本的改造が問題となつてゐることは確かであるが、しかしこれがための生産組織合理化の實踐は、事實上極めて困難なことが豫想される。蓋しフランスに於ける不況の根本問題には輸出の不振の外に農産物の價格問題があり、この點は植民地農産物の價格問題と極めてデリケートな關係にあるからである。

然らばかゝる理由にも拘らず尙ほ且つこの問題を取り上げた所以は何であるか。惟ふにフランスの外國貿易の總額について見ると、その對植民地貿易はその二七パーセントを占めてゐる。一九三四年の最初の七ヶ月に於けるフランスの貿易差額の輸入超過が四〇億フランに達してゐるのに反し、植民地よりの輸入超過は僅かに一億七五〇〇萬フランに過ぎない。この對植民地輸出増加こそはフランスをしてその帝國經濟會議を通じ、對外貿易輸入超過によつて蒙れる打撃を調和せんとせるものであること明かである。

或はまたこの會議を以つて日本及び北米合衆國が最近フランス植民地市場に侵入してゐるといふ事實から、この會議はその防衛策としてフランスにとつて實質的な目的を有つと考へる見方もないではない。²²⁾ この問題の精神的な方面、即ち全フランスなるものの自覺といふ方面を除いて、この會議が齎す實質的方面のみについて論ずるならば、問題の實質は恐らくこの種主張を去ることあまり遠くはないであらう。

22) ヴァルガ、世界經濟年報 1934. III pp. 110—111

23) Ginoux: Les conséquences pratiques de la Conférence économique impériale. (L'Information, 13. Avril 1935, p. 2)